

各世代の参加を

下方地区 地域支え合いフォーラム

世代を超えて住民同士で支え合う地域づくりを考える「下方地区地域支え合いフォーラム」(同実行委員会主催)が18日、奄美市名瀬の奄美病院研修センターで行われた。この日は行政やサポート員、同地域住民ら約70人が参加し、テーマは「住民による支え合い活動の創出と地域づくり」。参加者は同地区での試



活動報告では、小宿っ子お助け隊による感想なども述べられた

みや活動報告に耳を傾け、この先も安心して暮らせる地域のあり方について考えた。

同会は、地域包括ケアの仕組みづくり促進を目的に奄美市が取り組む「地域支え合い体制づくり」の一環で、現在、市内を八つの区域に分割し事業を推進。協議体などのサポート体制のもと自治体や住民が協力し、地域支え合いのため活動創出が各地で試みられている。

報告しながら情報共有を図り、同地域での指針やその可能性を探った。

勝村さんは、今後人口減少の加速が見込まれるなか、「若い物弱者」や「高齢者の引きこもり」の増加傾向に警鐘。その上で「あらゆる弱者にみんなで手を差し伸べる、そんな地域づくりが重要になる」とその趣旨を説明した。

勝村さんは、そのためには「まず話をするための場が必要」とし、▽集まる▽行動(実践)する▽継続する▽多世代を関わりさせる▽ポインタとして提示。「将来、誰もが少なからず助けが必要になる。自分のことと思っ

てみんなで関わってほしい」と各世代参加の必要性を示唆した。

活動報告では、里公民館の健康教室「元氣ひろはこころはん体操」や小学校児童による「小宿っ子お助け隊」み捨て代行事業などの取り組みをレポート。同地区の世代ごとの活動事例を紹介し、実際に体操などを交えながら主催者からその効果などを聞き取った。

この他、同地区で活動する西村ダンス教室による踊りや全員参加のダンスセッションも実施。最後に勝村さんは「人は一人で生きていけない。まずは多世代をつなぐための仕組みや仕掛けを作りたい。ぜひみんなで一緒に考えてほしい」と地域づくりへの積極的な参加を呼びかけた。

下方地区のフォーラム開催は今年が2回目で、同地区生活支援コーディネーター・勝村克彦さんをナビゲーターに会は進行。活動

来、誰もが少なからず助けが必要になる。自分のことと思っ